

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	高次脳機能障害 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期 金曜1限	教室名	第4校舎401
担 当 教 員	丸山 めぐみ	実務経験と その関連資格	友愛会病院で言語聴覚士として勤務し、成人(脳疾患等)の言語聴覚療法に携わる。			
《授業科目における学習内容》						
各高次脳機能障害の定義を理解し、発症メカニズムや症状の特徴を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書 : ①標準言語聴覚学 高次脳機能障害学第4版(白テキスト) パワーポイントのスライド配布資料						
《授業外における学習方法》						
予習・復習ともに①の該当箇所をよく読み込む。随時認問題を実施する。						
《履修に当たっての留意点》						
言語聴覚士は、多様な高次脳機能障害の患者さんと関わっている。 各専門用語を整理して正しく使用し、高次脳機能障害について理解を深めることが必要である。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	視空間障害とは何かを説明できる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	視空間障害/半側空間無視の症状			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	半側空間無視の特徴およびリハビリテーションの方法を説明できる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	半側空間無視の症状・評価・リハビリテーション			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	地誌的見当識障害の特徴およびリハビリテーションを説明できる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	街並失認/道順障害			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	バリエーション症候群の3症候を挙げ、説明できる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	バリエーション症候群の症状とリハビリテーション			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体図式の障害、病態認知の障害を挙げることができる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	ゲルストマン症候群/病態失認			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	失行による動作・行為症状を列挙し、説明できる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。
		各コマにおける授業予定	観念性失行/観念運動性失行/口舌顔面失行/拮抗失行/運動無視/道具の強迫的使用		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	失行以外の動作・行為症状を列挙し、説明できる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。
		各コマにおける授業予定	麻痺/肢節運動失行/視覚性運動失調/構成障害/着衣障害/模倣行動/利用行動		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	失行のリハビリテーションの方法を説明できる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。
		各コマにおける授業予定	失行のリハビリテーション		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			